

日本作業科学研究会ニュースー作ら，さくらー第3号



発行年月日 2007年12月27日

発行者 日本作業科学研究会

ウェブサイト <http://www.amrf.or.jp/jss/>

編集責任者 吉川ひろみ

第11回作業科学(OS)セミナー報告 2007年12月1日(土)，2日(日)，倉敷芸文館(岡山県倉敷市)にて，「“作業”を世の中へー作業を捉え，深め，生かし，見えるものへー」というテーマで開催されました。参加者数は，160名でした。一日目の第3回佐藤剛記念講演では，宮前珠子(聖隷クリストファー大学教授・日本作業科学研究会会長)氏が，「作業科学の系譜と今後の発展」とテーマで，日本の作業科学の歴史を振り返り，今後は世界の作業科学との情報共有，日本における研究の蓄積，健康政策など全体を視野に入れた取り組みが必要だと述べました。テーマ講演は，中谷文美(岡山大学)氏が「仕事にみえない仕事：『仕事』への文化人類学的アプローチ」，浅羽エリック(財団法人浅羽医学研究所附属岡南病院・カロリンスカ研究所)氏が「ナラティブを通しての作業の探究」，ルース・ゼムキ(南カリフォルニア大学)

氏が「健康高齢者研究は続く」について話されました。「作業科学を目標設定に生かすということ」と題したワークショップでは，小グループで作業を捉えた目標を立てることについて考えました。二日目は，招待講演としてアリソン・ウィックス(Alison Wicks, オーストラリア・ニュージーランド作業科学センター所長，作業科学国際協会会長)氏が，「メインストリームへ：作業科学を見えるようにすること」というテーマで講演され，作業を見えるようにすることによって，作業科学の考えを世の中の主流にする意志と具体策が提案されました。一般演題は8題で，様々な個人やグループの作業の経験が発表されました。2日間のセミナーを通じて，作業について深め，語り合い，作業科学と作業療法を世の中の主流にしていくエネルギーを蓄えることができました。



＜参加者感想＞

今回、初めて作業科学セミナーに参加しました。ほとんど作業科学がどのようなものなのか知らない状態で参加したこともあって、始めは話を聞いても理解に時間がかかり、よく分かりませんでした。実際に、セミナーの全日程が終了した時点でも全てを理解することができませんでした。自分の中での解釈に過ぎませんが、簡単にいうと「作業を中心に考え、その中で周囲にどのようにアプローチしていくのか」という自分の考えに至りました。これは、作業療法士でありながら、作業療法士とは何をする職業なのかという疑問が残っている自分にとってとても新鮮であり、今後もっと知っていく中でその答えが見つかるのではないかと感じさせてくれるものとなりました。同時に、作業科学というものを作業療法士や作業に関係のあるものだけで理解を深めていくのではなく、作業療法士をなかなか理解してくれない理学療法士やその他の職種にも話していくことで、本当のチーム医療が行えるようになっていくのではないのかと感じました。

(近藤幸人 浅羽医学研究所附属岡南病院)

日本作業科学研究会総会報告

【日時】2007年12月1日12:10～13:00

【場所】倉敷市芸文館

【議長】近藤敏（県立広島大学）

【副議長】藤原瑞穂（神戸学院大学）

【書記】笠原彩・久保田明子（禎心会病院）

【議事録署名人】：小田原悦子（聖隷リハビリ
プラザ IN 高丘）島崎佳子（この脳神
経外科病院）

12月1日現在の会員146名、総会参加58名、
委任状提出17名、合計75名で定足数充足

【議案】

1.平成18年度(2006年冬～2007年秋)事業報告

→賛成多数で承認

2.平成18年度決算報告・監査意見報告

→賛成多数で承認

3.平成19年度(2007年冬～2008年秋)事業
計画及び予算案

セミナー参加費について質問があり、会員・
非会員、全日参加・1日参加など種類があるこ
とを説明した。→賛成多数で承認

4.次期作業科学セミナー大会長承認の件

専門学校社会医学技術学院 西野歩氏が推
薦された。→賛成多数で承認

アメリカ作業科学学会に参加して

今年の第6回 Society for the Study of
Occupation: USA(SSO:USA)のカンファレン
スは、ニューメキシコ州にある Albuquerque
市で2007年10月25, 26, 27日の3日間開
催されました。このカンファレンスはアメリカ
で毎年開催されている作業科学の学会で、今回
はヨーロッパやアジア諸国からの出席者も含
めて110名ほどが参加しました。今年のテー
マは、「A Community of Scholars: Crossroads
of Culture and Occupation (学者達の共同体
—文化と作業の岐路)」で、プレ・カンファレ
ンス, Zemke Lecture (ゼムケ先生記念講演),
口述発表28題, パネルディスカッション4題,
ポスター発表24題がありました。Zemke
Lecture では, Willard & Spackman の『作業
療法』にも執筆している Graham Rowles 氏に
よる「作業科学における Place」の講演があり
ました。この講演では, 環境的な文脈からライ
フコースを説明し meaning や being in place,
home の概念が詳しく紹介されると共に, 今後
も作業と place の関係の研究を深めていく必
要があることが改めて確認されました。口述発
表は, 1つの演題につき30分の時間が割り当
てられ, 小会場3箇所に分かれ, 熱心に意見が
交わされていました。日常の作業がリウマチ患
者の痛みや及ぼす影響, 慢性的な精神障害者の
作業と健康や幸福の関係, 脊髄損傷者の褥創の
進行と作業的なライフスタイルのあり方とい

った作業療法の実践にも直接応用できそうな報告の他にも、盲の女性が作業従事を通してどのようにその状況に適応しているか、成人女性達が日常の作業の中でどのようなスピリチュアルな経験をしているかといった作業の理解を深めていく研究等もあり、幅広い研究報告を聞くことができました。日本からは、プレ・カンファレンスの講師の一人として浅羽エリックさんの講演と、小田原悦子さんによるある高齢女性の *death with dignity* をテーマにした口述発表がありました。

さて、26日の夜に行われた「Zemke レセプションと成果を祝おう」では我が日本作業科学研究会にとってもうれしい一幕がありました。このレセプションでは、その年に何らかの成果があった会員（例えば、仕事が決まった、学位がとれた、昇進した、投稿論文が受理されたなど）が、参加者全員から祝杯を得るという催しがあります。今年は、その一番はじめに「作業科学グループの新しい仲間の誕生ー日本作業科学研究会の発足を祝して」の祝杯が行われました。



遠くアメリカの地から、我々の研究会の船出を暖かく祝っていただいたのは感動的でもあり、作業科学を共通言語として世界とつながっていることを改めて感じる出来事でした。来年のカンファレンスは、Southeastern Floridaで行われる予定です。また、SSO:USAの情報は、当研究会のホームページのリンク集からもアクセスできます。過去の抄録も掲載されていま

すので、アクセスしてみてください。

(坂上真理 札幌医科大学)

国際作業科学協会 (ISOS)の発展

国際作業科学協会 (The International Society of Occupational Science (ISOS), 2007年に改名)とその発展について、簡単にご紹介したいと思います。ISOSは作業科学に関心のある32人の作業療法士により、1999年のオーストラリア作業療法学会開催の際に誕生しました。誕生時の理事会メンバーは、Ann Wilcock (協会長), Florence Clark (副会長), Liz Townsend (副会長, 経営担当), そして Alison Wicks (エグゼクティブアシスタント) でした。それ以来、概念上・業務上双方において何度かの発展を繰り返し、現在の理事会メンバーは5人です。Alison Wicks (会長), Hans Jonsson (副会長, 運営担当), Eric Asaba (副会長, プロモーション担当), Erna Blanche (会計), そして Debbie Laliberte Rudman (書記) です。ISOSの使命は、「作業についての研究や教育にかかわる個人または組織の世界的ネットワークを促進し、作業を通じた健康への寄与を世界に広めること」です (ISOS Way Forward Plan, 2007)。この使命に取り組むため、次の3つの目的を持ちます。(1)作業に関する国際協力的研究を促進する。(2)すべての教育レベルにおいて作業科学や作業を中心としたカリキュラムを発展させ実行するための、国際協力を促進する。(3)地域・国家・国際レベルにおける政策や実践の領域において、人々の健康と地域発展に、作業を通じて貢献する。

ISOSは政策、教育、そして様々な研究に影響を及ぼす戦略的プランを作ることで、幅広いターゲットを対象とすることを目的としています。200人を超える個人会員に加え、組織会員からも多くのサポートを得ています。年代順に挙げると、University of Texas - Medical Branch, University of Southern California,

そして Karolinska Institutet です。近年 ISOS は実質的な成長を遂げました。その成長の一端を担ったのは, 2006 年に ISOS と Australasian Occupational Science Center (AOSC)が世界のリーダーたちを集め, これまでの見直しと新たな戦略的プランを練り直したことです。日本からは宮前さんと吉川さんが参加されました。ISOS シンクタンクの報告は, ISOS のウェブサイトでご覧になれます。

現在の ISOS のほとんどのメンバーは作業療法士ですが, 作業(「雇用」や「仕事」でなくより広い意味での作業)に関するトピックに関心のある個人なら誰でも参加自由です。日本を含めた多くの国で作業科学は作業療法と関連して考えられがちですが, アフリカ, オーストラリア, 北アメリカ, 東ヨーロッパの一部では, 社会が生み出す格差に対する, 作業を通じたアプローチが注目を集めており, それらは必ずしも作業療法の臨床と関連するものではありません。作業科学が生み出す考えに, 社会の関心の目が向けられつつあります。作業科学という学問の, 可能性の無限の広がりがそうさせているのでしょうか。ISOS は近く(2008年春予定)新しいウェブサイトを立ち上げる予定です。みなさんぜひのぞいてみてください。浅羽エリック(浅羽医学研究所附属岡南病院・カロリンスカ研究所)

事務局からのお知らせ

機関誌「作業科学研究」創刊号の発刊と送付

2007年12月に研究会の機関誌「作業科学研究」の創刊号が発刊されました。現在, 平成18年度と平成19年度の会員の皆様に発送しております。なお, 機関誌は会員500円(1冊無料, 2冊目以降の値段), 非会員800円です。まだ, お手元に届いていない方は, 事務局までお知らせください。また, 投稿論文も募集しています。詳しくは, ホームページの投稿規定をご覧ください。

平成19年度年会費納入のお願い

本研究会の平成19年度の期間は, 平成19年10月1日から平成20年9月30日となっております。平成19年度の年会費(2,000円)を納入されていない方は, ご入金をよろしくお願いたします。

新規会員の登録された方へお願い

本研究会の会員になるためには, 入会申し込みの他に, 年会費の納入が必要です。年会費入金の確認をもって会員と認めさせて頂いておりますので, 申し込み後にまだご入金をされていない方は, お早めにお振り込みください。

事務局問い合わせ: jssso-contact@amrf.or.jp

郵便振替口座: 19010-39719941

加入者名: 日本作業科学研究会

平成19年12月20日現在の会員数 181名

平成19年度 第1回理事会報告

【日時】平成19年12月1日(土)20~21時

【場所】倉敷市芸文館 アイシアター

【出席者】宮前, 吉川, 港, 浅羽, 村井, 坂上

【議題】

- 1.機関誌の件: OT養成校へ発刊案内送付。セミナー講演者に寄贈。査読体制を整備。年1回11月発行予定。投稿原稿締め切り7月末
- 2.ホームページの件: サーバーの移行。会員サイト, 英語サイト開設の検討。サーバー, IT管理者と契約予定
- 3.研究会ニュースの件: 年2回発行
- 4.第12回作業科学セミナーの件: 300名規模の会場を予定。分科会, ポスター発表等検討。
- 5.第13回作業科学セミナーの件: ISOS との共同開催を視野にいれ, 大会長を浅羽, 補佐を吉川, 港とする予定。
- 6.日本作業療法学会ワークショップの件: ワークショップ企画提案者を中心に実施予定。
- 7.次年度選挙の件: 準備する。
- 8.ENOTHE 会員の件: 継続。

ENOTHE の紹介

前号理事会報告に掲載の ENOTHE が提案した MUNDUS プロジェクトは助成金を獲得することができませんでしたが, 当研究会は ENOTHE と継続的に関わりをもつことにしました。ENOTHE とは, 高等教育における作業療法欧州ネットワーク (European Network of Occupational Therapy in Higher Education で 1995 に欧州諸国作業療法士協議会 (Council of Occupational Therapists for the European Countries: COTEC) の先導でヨーロッパ連合の中で誕生しました。欧州の作業療法教育の質と知識を発展させ, まとめていくことを目的としています。

<<http://www.enothe.hva.nl/index.html>>

ENOTHE は, 様々なテーマに取り組んでおり, 作業科学プロジェクトグループもあります。

第 12 回作業科学セミナーご案内

2008 年 11 月下旬か 12 月初旬の週末に, 東京にて開催予定です。西野歩さんを中心に準備しています。

第3回 日本 AAD 講習会のお知らせ

新しい障害認識の評価法である AAD (Assessment of Awareness of Disability) は, クライアント中心かつトップダウン方式のアプローチを基盤に開発された革新的な評価法で, AMPS と密接に関連し, 半構造化された面接に基づいた実施されます。クライアントが自分の障害をどの様に認識をしているかを見極め, 作業療法士が治療介入計画の立案に活用することを目的としています。

【日時】 2008 年秋 (4 日間) 詳細未定

午前 8 時 30 分 ~ 午後 6 時

【場所】 未定

【共催】 財団法人 浅羽医学研究所

カロリンスカ研究所

【講師】 Anders Kottorp, Ph.D., Reg. OT

カロリンスカ研究所 OT 学科長代理

ストックホルム, スウェーデン

【受講資格】 AMPS 講習会の受講歴のある方

【定員】 20 名 (先着順)

【申込・問合せ先】 AAD 講習会事務局

URL: <http://www.amrf.or.jp/aad>

作業科学専門学術誌

Journal of Occupational Science の紹介

1993 年に創刊された作業科学の国際的学術誌です。オーストラリアで創刊され, 編集長はニュージーランドのクレア・ホッキングさんです。アメリカ, カナダ, スウェーデン, イギリスなど各国から寄せられた作業科学の論文を読むことができます。もちろん作業療法士以外の研究者による論文もありますし, 作業療法士であっても, これぞ作業科学と感嘆する鋭い切り口の論文に出会うことができます。「作業プロフィール (Occupational Profile)」と題したコラムは, 様々な人の人生が作業の視点で語られているインタビュー記事です。年 3 号発行されていて個人契約では AUD \$75.00, 組織契約では AUD \$200.00 です。注文はホームページ <<http://www.jos.edu.au/>>から。作業療法士養成校の図書館に, おいてほしい雑誌です。

日本語の作業科学関連図書の紹介

吉川ひろみ: 作業って何だろう 作業科学入門.

医歯薬出版 (2008年2月初旬出版予定.

税込み2,310円)

編集者からのお知らせ

記事がある会員は, 吉川ひろみ yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp まで, お知らせください。